



2018年3月期（122期） 第2四半期決算説明資料

グンゼ株式会社



1. 第2四半期 決算概要

I-1. 2018年3月期 第2四半期 業績

連結業績

(単位：百万円)

	2018年 3月期 第2四半期	2017年 3月期 第2四半期	対前期		利益率(%)	
			増減額	増減率 (%)	2018年 3月期 第2四半期	2017年 3月期 第2四半期
売上高	67,792	66,015	1,776	2.7%	-	-
営業利益	3,370	2,516	854	33.9%	5.0%	3.8%
経常利益	4,006	-3,080	7,087	-	5.9%	-
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	2,537	-2,688	5,226	-	3.7%	-

前年同期営業外損益△5,597百万円
 (デリバリティブ評価損△5,030、為替差損△750)

I-2. 第2四半期の決算サマリー

機能ソリューション事業

(単位：億円)

対前年 増減		主なポイント
売上高	2	<ul style="list-style-type: none"> ◆プラスチックフィルムは、主力のシュリンクフィルムが国内及びアジア向け輸出で好調 ◆エンジニアリングプラスチックは、好調な半導体市場向け及びOA機器向けが堅調
営業利益	8	<ul style="list-style-type: none"> ◆電子部品は、工場再編・合理化等の構造改革を継続 ◆メディカルは、中国向け及び新商品「デュラウェーブ」が好調

アパレル事業

対前年 増減		主なポイント
売上高	16	◆インナーウェアは、レディスインナーを中心とした差異化商品の拡販並びに成長販路の拡大で順調
営業利益	2	◆レッグウェアは、ソックスのフットカバー、スニーカーイン、ルームシューズが健闘もストッキングが苦戦

ライフクリエイイト事業

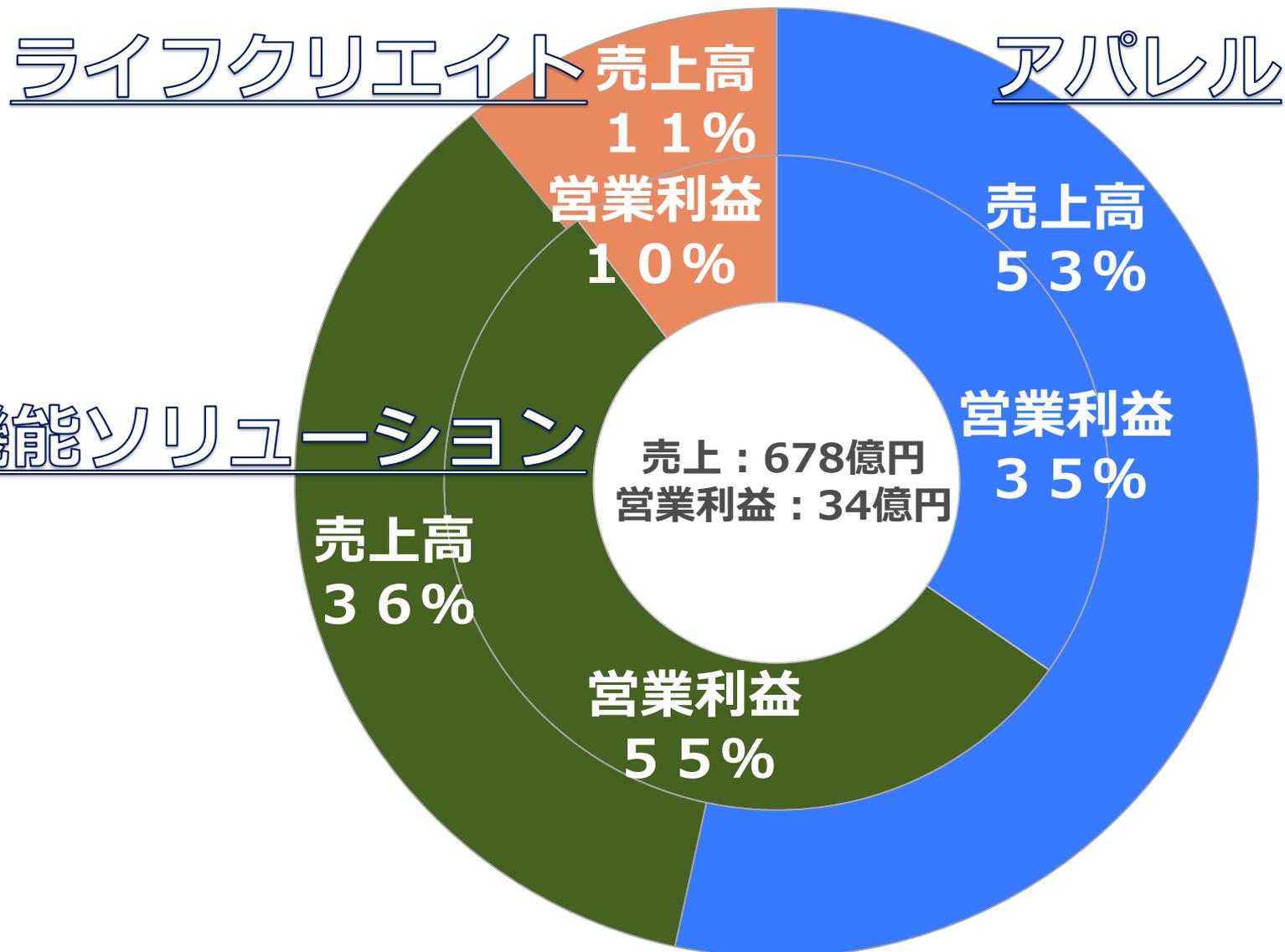
対前年 増減		主なポイント
売上高	1	◆不動産関連は、ショッピングセンター事業は引き続き地域に密着した経営で堅調、賃貸住宅事業は新規物件が貢献
営業利益	▲1	◆スポーツクラブは、本年4月に開業した2店舗の新規出店に伴う初期費用が影響

I-3. 第2四半期セグメント別業績

(単位：百万円)

	売上高			営業利益 (下段：利益率)		
	2018年 3月期 (2017年度)	2017年 3月期 (2016年度)	増減	2018年 3月期 (2017年度)	2017年 3月期 (2016年度)	増減
機能 ソリューション	24,289	24,124	164 0.7	2,704 11.1%	1,924 8.0%	779 3.1
アパレル	36,291	34,729	1,562 4.5	1,741 4.8%	1,537 4.4%	203 0.4
ライフ クリエイト	7,408	7,351	56 0.8	474 6.4%	546 7.4%	▲72 ▲1.0
合計	67,792	66,015	1,776 2.7	3,370 5.0%	2,516 3.8%	854 1.2

I-4. 第2四半期 セグメント別構成比

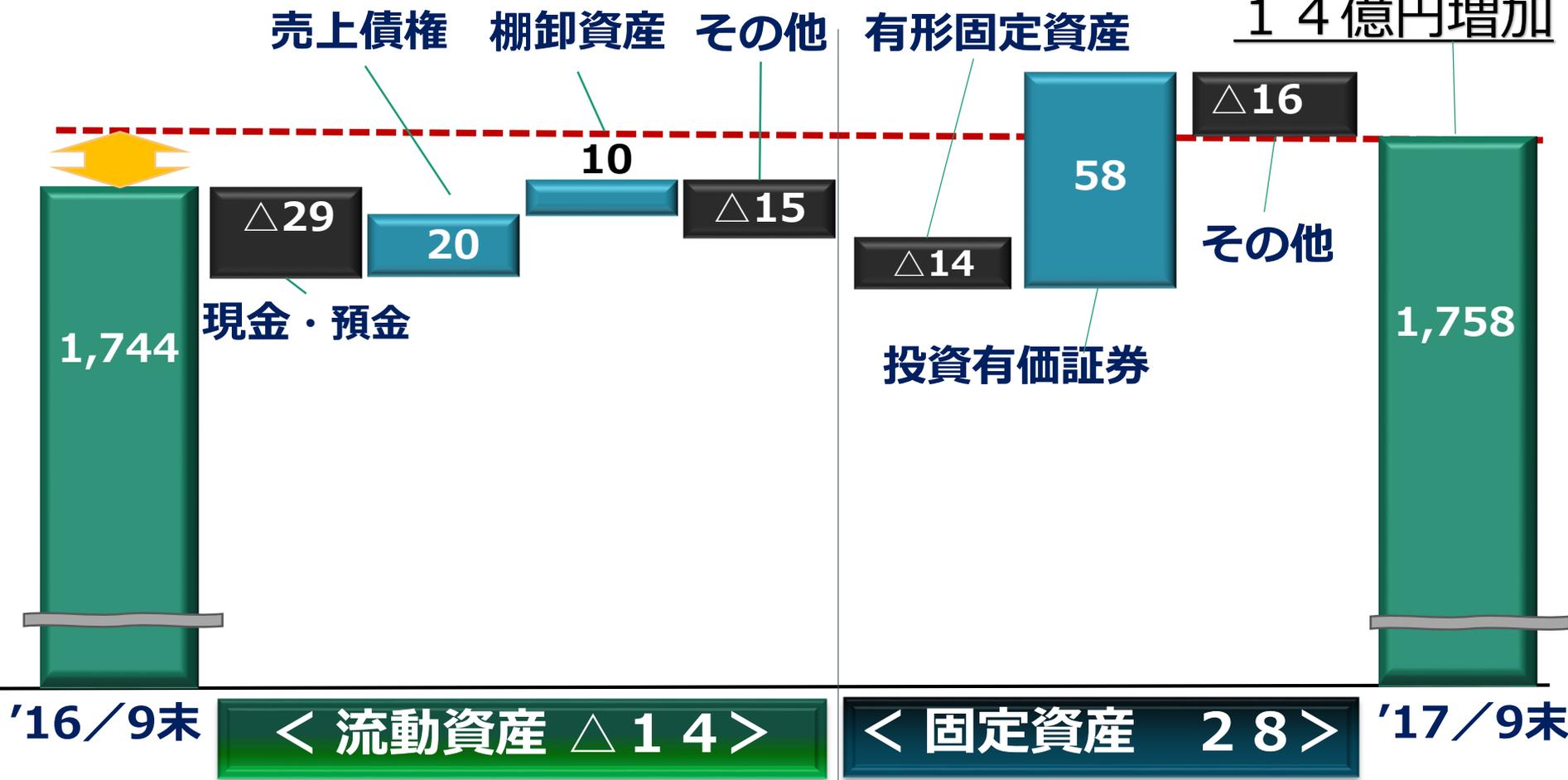


I - 5 . 資産の増減内容

◆ 前年同期比（前第2四半期比較）

（単位：億円）

14億円増加



I - 6 . 主要財務・経営指標(連結)

	単位	2018年 3月期 第2四半期	2017年 3月期 第2四半期	増減
総資産	百万円	175,753	174,399	1,354
自己資本	百万円	110,415	99,074	11,342
自己資本比率	%	62.8	56.8	6.0
有利子負債額	百万円	34,812	38,221	△3,409
BPS : 1株当たり純資産	円	6,010.90	5,299.05	711.85

I-7. キャッシュフロー

キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2017年度 (18/3期) 第2Q	2016年度 (17/3期) 第2Q	増減
営業活動	△169	3,820	△3,990
投資活動	△4,598	△4,529	△68
FCF	△4,767	△709	△4,058
財務活動	5,499	6,551	△1,052

■ 主な営業CF

税金等調整前四半期純利益	3,766
減価償却費	3,196
売上債権の増加	△2,750
たな卸資産の増加	△1,632
法人税等の支払額	△1,221
その他の流動負債の減少	△1,019

■ 主な投資CF

固定資産の取得	△3,134
投資有価証券の取得	△1,017

■ 主な財務CF

長短借入金及びCPの増加	8,333
配当金支払	△1,397
自己株式の取得	△1,358

I - 8 . 設備投資と減価償却費

◆ 前年同期比（第2四半期累計）

（単位：百万円）

	設備投資				減価償却			
	2018年 3月期		2017年 3月期	増減	2018年 3月期		2017年 3月期	増減
	年間計画	2Q累計	2Q累計		年間計画	2Q累計	2Q累計	
機能リユース	2,900	1,020	685	335	3,100	1,323	1,489	△166
アパレル	1,800	365	1,276	△911	1,400	666	606	60
ライフワーク	1,200	397	1,534	△1,137	1,700	893	878	15
その他	1,500	718	183	535	800	348	323	25
合計	7,400	2,500	3,680	△1,180	7,000	3,232	3,297	△65

■ 今期の主な投資計画

メディカル製品生産工場建物及び生産設備	1,000
プラスチックフィルム生産設備	800
インナー生産設備及びシステム開発	800



Ⅱ．事業セグメント別の概況

Ⅱ-1. 第2四半期の事業概況

◆ 機能ソリューション事業 1

■ プラスチック

主力商品の差異化によるシェア拡大と
 事業環境の変化に伴う新市場、新商品開発推進

◆ 製品群	概況
平板収縮	・ 異形容器飲料の増加と、HOT飲料等の先行展開で好調
軟包材	・ 冷凍下での耐ピンホール性を向上させた新商品が採用拡大
工業用品	・ 半導体市場の好調を受け、パッケージダイシング基材が好調
OPP	・ カット野菜用途の増加で堅調



■ 複合ナイロンPFタイプ

■ エンジニアリングプラスチック

主力OA商品の成熟化対策と
 非OA分野製品の拡大による新市場創造

◆ 製品群	概況
OA向け機能商品	・ OA市場への高機能商品提案が実り復調
非OA分野	・ 半導体市場向け製品の旺盛な需要で好調を持続



■ フッ素樹脂小口径収縮チューブ

Ⅱ-2. 第2四半期の事業概況

◆ 機能ソリューション事業 2

■ 電子部品

工場再編・合理化等の構造改革と
 事業のダウンサイジング化

◆ 製品群	概況
フィルム販売	・ 機能フィルム（OCA）の売上減が影響
タッチパネル	・ 車載や文教用途が順調も民生用が業務用への切替で減少
その他	・ 受託加工、ユニット品等の新規開拓案件の獲得

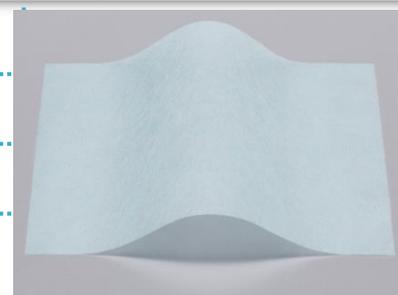


■ ウエットコーティングシステム

■ メディカル

新工場建設など積極的な経営資源の投入と
 事業拡大に向けた生産・販売体制整備

◆ 製品群	概況
組織補強材	・ アジア向けは堅調も、国内、北米向けの出荷が一巡
骨接合材	・ 中国向けは堅調も、国内は在庫調整により苦戦
人工皮膚	・ 学会でのプロモーション強化をするも、競合との競争激化により前年並みで推移
人工硬膜	・ 新商品デュラウェーブ（無縫合タイプ）が好調



■ 人工硬膜デュラウェーブ

Ⅱ-3. 第2四半期の事業概況

◆アパレル事業

■ インナーウェア分野

差異化技術による重点ブランド拡販で成長加速
 新規販路・売場の拡大

● 差異化技術商品が好調、成長販路が拡大

メンズ

- ・「YG」は、差異化技術カットオフの販促強化で伸長
- ・「BODYWILD」は、新規販路(CVS等)で拡大

レディース

- ・「KIREILABO」完全無縫製インナーが店舗拡大で好調
- ・「Tuche」縫い目ゼロハーフトップ、フューチャーブラが好調



■ レッグウェア分野

市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした
 新市場・新商品の開発推進

● 主カストッキングのシーズン商品が低調に推移

- ・ストッキングのセパレートは伸長
- ・ソックスは、フットカバー、スニーカーイン、ルームシューズなどの新商品が健闘



Ⅱ-4. 第2四半期の事業概況

◆ライフクリエイイト事業

■不動産関連分野

●SC事業の現況

- ・夏のセール後の衣料品が苦戦するも飲食・サービスが好調
- ・テナント売上高は前年並み

●不動産賃貸事業の現況

- ・賃貸住宅が新規物件により増収増益
(夙川賃貸マンション、綾部賃貸住宅)



■夙川賃貸マンション(兵庫県西宮市)

■スポーツクラブ分野

●スポーツクラブの営業状況

- ・既存店は、入会促進キャンペーン効果により前年並みで推移
- ・4月にオープンした新店（吹田ミリカ店、富山レガートスクエア店）の初期費用影響を受けた



■富山レガートスクエア店



Ⅲ. 今後の見通し

Ⅲ-1. 2018年3月期連結業績予想

業績予想

※ 業績修正：有

(単位：百万円)

項目	2018年3月期 (122期) 連結		2017年3月期 (121期) 連結		対前年	
	業績修正予想 (下段：修正額)	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	140,000 (+2,000)	/	136,579	/	3,421	2.5%
営業利益	5,500 (+1,200)	3.9%	4,206	3.1%	1,294	30.8%
経常利益	6,000 (+1,200)	4.3%	4,671	3.4%	1,329	28.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,200 (+700)	2.3%	3,102	2.3%	98	3.2%

Ⅲ-2. セグメント別業績予想

セグメント別の対前期比較

※ 業績修正：有（単位：百万円）

	売上高				営業利益（下段：利益率）			
	2018年3月期 （2017年度）		2017年 3月期 （2016年度）	増減額 （率，%）	2018年3月期 （2017年度）		2017年 3月期 （2016年度）	増減額 （率，%）
	修正予想	修正額			修正予想	修正額		
機能ソリューション	49,800	1,000	50,195	△395 △0.8%	4,800 9.6%	1,200	3,468 6.9%	1,332 2.7%
アパレル	74,300	1,000	71,629	2,671 3.7%	2,700 3.6%	0	2,505 3.5%	195 0.1%
ライフクワイエット	16,400	0	15,168	1,232 8.1%	1,400 8.5%	△100	1,322 8.7%	78 △0.2%
本社／消去	-500	0	-415	△85	-3,400	100	-3,090	△310
合計	140,000	2,000	136,579	3,421 2.5%	5,500 3.9%	1,200	4,206 3.1%	1,295 0.8%

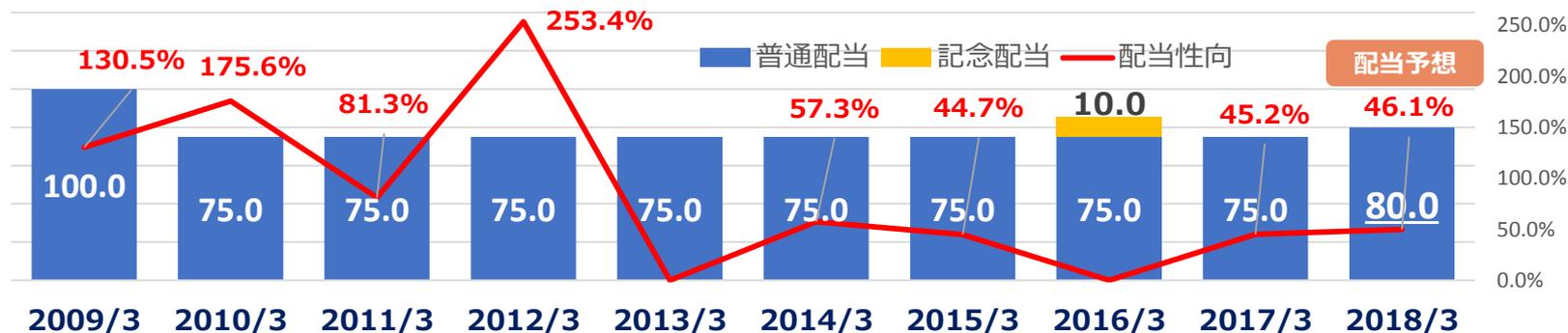
機能ソリューション事業の売上が好調なことや、コストダウン低減効果等により、当第2四半期連結累計期間の業績が予想以上に推移していることから、2018年3月期連結業績予想を上記の通り修正しております。

第122期（2018年3月期）配当は、80円／株（年初予想 75円／株）の増配を予定しております。

Ⅲ-3. 株主還元

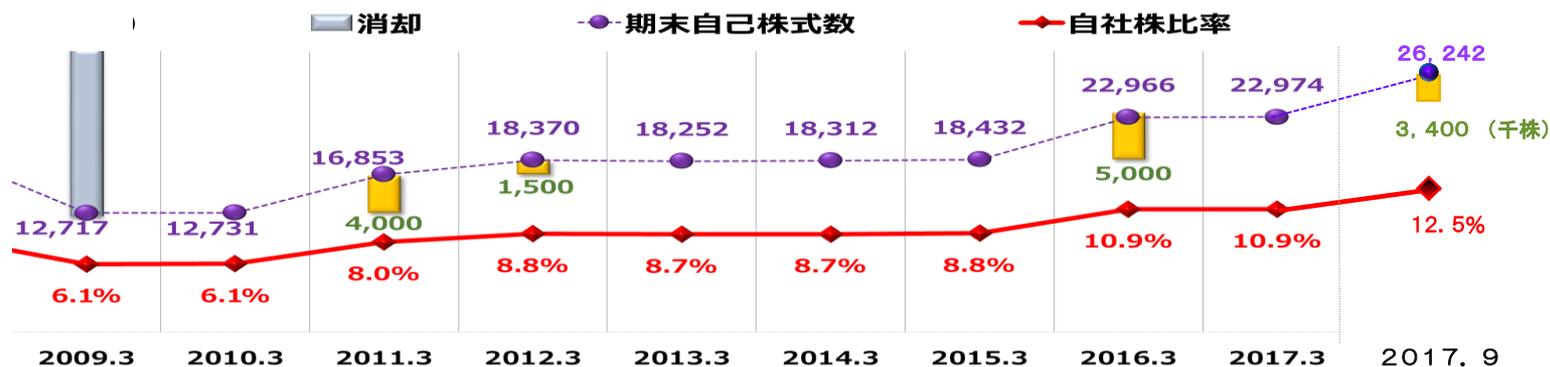
1 株配当金と配当性向の推移

(単位：円)



* 2017年3月末以前の1株配当金は、2017年10月1日からの株式併合(10株を1株)に合わせて換算しております。

自社株の状況



CAN 20第2フェーズでは、連結配当性向50%、総還元性向100%を目途に利益還元を行う方針です。

明日をもっと、こちよく

GUNZE

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。